

平成28年度 北海道総合計画推進本部・推進協議会(28.7.25) 開催概要

- 1 日時：平成28年7月25日(月)10:00~11:35(KKRホテル札幌 3階「鳳凰」)
- 2 出席者：[有識者] 加森観光・加森社長、JTB北海道・笹本社長、ANA・三宅北海道支社長
[北海道] 総合政策部長、計画推進担当局長、政策局長、地域創生局長、
国際局長、交通政策局長、新幹線推進室長、航空局長、
観光局長、国際観光担当局長、国際経済室参事、食関連産業室長、
渡島総合振興局副局長、宗谷総合振興局副局長、十勝総合振興局副局長

3 主な発言内容

- 今後、北海道観光をさらに発展させていくためには、戦略的開発エリアを指定して、地域を磨き上げ、各地域のブランドを再構築する必要がある。北海道観光のリブランディングということで、多様な地域ブランドの総合力を出していくことが重要。ブランドを再構築して、外国からも日本からもお客様を集めていくことが必要。
- 観光人材が不足している。本州や外国から新しい人材に来てもらい、観光業に従事していただくようなプラットフォームづくりが必要。
- 推進組織の高度化として、民間のマーケティング発想を取り入れたDMO組織の構築していく中で、国あるいは道の公的資金のみならずホテル税等の自主財源を確保していくことも必要。
- 北海道は広大で、観光資源が非常に豊富であるが、その広大さ、豊富さが故に、北海道の良さがアピールしづらくなっていると感じる。北海道の魅力を体系立てて、一貫性を持ってお客様に伝える必要がある。そうすれば、もう少し北海道の魅力を総合的に伝えることができるのではないかと。
- 北海道の広大さは、道内観光業者が共通の価値観や目標を持ちにくくしているのではないかと。北海道の観光に携わる全員が、共通の目標と、その目標達成に向けたアクションプランを持てば、広大さ・豊富さが他県に比べて抜きん出たものになるのではないかと。
- 路線の維持は、どの自治体にとっても大きな課題であり、人口減少の中でも、お客様を取り込んで路線を維持するということが、事業者と自治体が一体となって取り組むことが必要。
- 道央圏に集中している観光客を、いかに他の地域へ分散させるかということについて、道央圏以外の地域には、それぞれユニークな食材があるので、食が大変重要な観光資源になるのではないかと。
- その食をどのように発信していくかということについては、北海道全部で取り組むぐらいのスケールの大きなものでなければ、「食=北海道」になっていかない。春夏秋冬、それぞれ北海道はいろいろな食材があるが、観光客が落ち込んでくる秋に道の方で市町村の皆さんに声かけをして、全道的なイベントを開催するなど、「収穫の秋=北海道」というイメージを作っていただきたい。
- 北海道はビーチ、ワイナリー、牧場など屋外で食事をいただくと数倍もおいしく感じるのではないかと。屋外が最高のインテリアだと思う。そのような舞台をセットできるのが北海道だ。